

## 情報戦略の勧め【松田 宏（専門分野：情報戦略）】

FellowLink 倶楽部 2015/02/01 #19 に寄稿

昔の経営者は資源として「人」「物」「金」を考えた。今は「情報」が加わり、比重が急速に高まっている。情報を扱う仕組みは当初、大量の数値データを電子的に高速かつ正確に計算するという意味で電子計算 (Electronic Data Processing: EDP) システムと呼ばれた。

その後、より高度な処理を行うようになり情報処理 (Information Processing: IP) システムと名称が変わった。現在では情報技術 (Information Technology: IT) と通信技術を組合せた情報通信 (Information & Communication Technology: ICT) システムが主流となっている。利用側もパンチカードや印刷帳票、専用端末などから、汎用のパソコン、タブレット端末、スマートフォンなどに急拡大している。背景にはICTの急速な進歩による性能向上と価格の劇的な低下がある。

例えば20行あった時代の都市銀行のオンラインシステムはデータ容量が1GB (ギガバイト=10億バイト) 程度だったが、今ではスマホやデジカメの内蔵メモリにその何倍ものデータが格納できる。子供のお年玉で買えるゲームマシンの性能は、かつて何十億円もした昔のスーパーコンピューター並みである。

今や企業活動の盛衰は情報の質と量、活用方法によって大きく左右される。ひと昔前はIT企業といえばコンピューター機器の製造販売やソフトウェア開発、システムインテグレータを意味した。今ではインターネットを活用した情報提供サービスや通信販売、あるいは業務インフラを提供する情報サービス・プロバイダー企業が中心である。新規上場企業にはIT関連で急成長した企業である。ITは今や企業戦略における主力兵器選定のような位置づけとなり、支出が売上高の何%を占めるかという必要経費的なとらえ方ではなくなりつつある。

中国春秋戦国時代の戦略家である孫子は著書「孫子の兵法」の冒頭で、「兵 (軍事) は国の大事、以て察せざるべからず (深く考えなければならぬ)」と述べている。戦略とは元は軍事用語であるが、企業が激しい競争の中を生き抜いていくためにも必須で、中でも情報に関する戦略は重要である。孫子は「用間編」で、情報収集には惜しみなく費用をかけるべきだ、情報投資は何倍にもなって帰ってくるが費用を惜しめば莫大な損失をもたらすことがある、と述べている。

これは現代企業でも、変わらない重要な戦略的な視点であろう。しかし多くの経営者は店舗や製造設備、物流センターへの投資計画には熱心でも、コンピューターはよくわからないと部下に任せがちである。それでよいのだろうか。

それでは情報活用により攻めの経営を行おうとする企業は、情報投資として何を、いつ、どこに、どの位、どのように行ったらよいのだろうか。それが情報戦略である。その根拠が経営戦略から導き出されるニーズである場合もあれば、最新のICTの活用可能性や先行事例などから導きだされるシーズの場合もある。市場も技術も変化の激しい今、改めて企業の情報戦略を練り直すことをお勧めしたい。軍師として情報戦略の専門家が助言と支援をさせていただく。